

映画「がんと生きる～言葉の処方箋」

ながれやまがん哲学外来カフェ 代表 春日井いつ子

野澤和之監督が映画を撮り始められた頃、丁度「ながれやまがん哲学外来カフェ」の1周年記念でした。生涯学習センターの場所も良く撮影は双方がタイムリーでした。後日カフェの撮影もしたいとの事で参加者も快諾し順調に進みましたが、私は陽気で元気ばかりが目立ちドキュメンタリー映画としてはスパイスに欠ける様でした。患者である私をもっと光と影の両面を持ち合わせ愁いのある表情も撮ればよかったです。ところが後日、元気過ぎて残念！と聞かされ大笑いです。

しかしこの春、わが身の事ではなく影には充分過ぎる悲しい出来事がありました。毎回カフェを楽しみに参加されていた70代の男性が逝き半年後に60代の女性が天国へ。野澤さんは男性の訃報に電話の向こうで泣いていました。フィルムにはお二人の姿があります。それぞれのご遺族がいつの日か、ご主人、奥様がカフェで生き生きと語っている在りし日の証の姿を勇気を持ってご覧になる日が来ます事を願っております。

監督は寒さに震える日も暑さうだる日も映画製作に心血を注ぎました。これも全て樋野先生の素晴らしい著書、言葉の処方箋があったからこそその実現です。先生の生み出して下さったがん哲学外来カフェによって幾多の方が心を救われているのでしょうか。このフィルムがご遺族にとって心に焼き付けるプレゼントになりますように。生涯の思い出を心から感謝致します。

メディカル・カフェをオープンします！

多摩川せせらぎメディカルカフェ 代表 岡内 泰子

がんに罹患して、病いがもたらす身体的精神的また社会的にいろいろな事を現実として経験させられました。その中で樋野先生の著書に出会い、「がん哲学外来」の存在を知りました。

御茶ノ水カフェ (OCC) へ参加させていただき、暫くして人生「残りの時間」、カフェの場を自分の居住地域にも作りたいと思いました。そして樋野先生をはじめOCCでの出会いに恵まれた先輩方のご支援によって東京のはずれに「多摩川せせらぎメディカル・カフェ」を開ける運びとなりました。

会場のせせらぎ公園集会施設は昭和テイスト満載ですが心が落ち着く雰囲気もあり、これから小さなカフェとしてスタートして、「病気であっても病人ではない」生き方をめざしていけたらありがたいと思います。

ここに集まる皆様にとって、不安や苦しみや悲しみなど、様々な事柄について暖かい分かち合いのできる「場」にカフェがなれたらと切に願っております。



第1回 **がん哲学外来**  
**多摩川せせらぎメディカル・カフェ**

特別講演会：からし種 ～がん哲学・外来～



講師：医学博士 樋野 興夫 先生  
順天堂大学大学院医学研究科  
医学専攻環境と人間系 分子病理病態学教授  
順天堂大学国際看護学部教授  
一般社団法人がん哲学外来理事長

**がん哲学外来メディカル・カフェ** とは

リラックスした雰囲気の中で、病気の不安や悩みをともに語らいませんか。

日本人の2人に1人ががんになると言われている時代、患者だけでなく、家族、遺族、友人、医療関係者、学生が集い「病気であっても、病人でない」、その人らしい生き方を探す対話の場です。

今、一般社団法人がん哲学外来のカフェの場は各地にひろがりをみせています。

初めての方も、お気軽にご参加ください。

日時：2019年1月14日(祝)  
13時30分～16時

会場：田園調布 せせらぎ公園 集会施設  
場所：東京都大田区田園調布1-53-10

最寄駅：東急東横線 目黒線 多摩川駅 下車  
多摩川線 改札口を出て左側 すぐ

参加費：¥300 (当日受付にて申し受けます。)



要申込み：1月12日までに事務局へお申し込みをお願いします。  
参加希望の方は裏面をご確認の上、下記のいずれかの方法でお申込みください。(定員38名)  
※ 樋野先生と個人面談をご希望の方は、予め申し出ください。  
都合により、ご希望をお受けできない場合があることをご了承ください。

代表：南 泰子  
メール：subtillis2019@yahoo.co.jp  
電話・FAX：03-3721-0855

主催：多摩川せせらぎメディカル・カフェ  
後援：一般社団法人 がん哲学外来  
http://www.gantetsugaku.org/  
協力：カトリック田園調布教会 サンサロン

<編集後記>

12月14日(金)午後1時、「がんと生きる～言葉の処方箋」の試写会が銀座の「TCC 試写室」で開かれた。観終わって、この映画が全ての人に明日への「生きる力と希望」を与えてくれることを確信した。(星野昭江)